

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業の概要

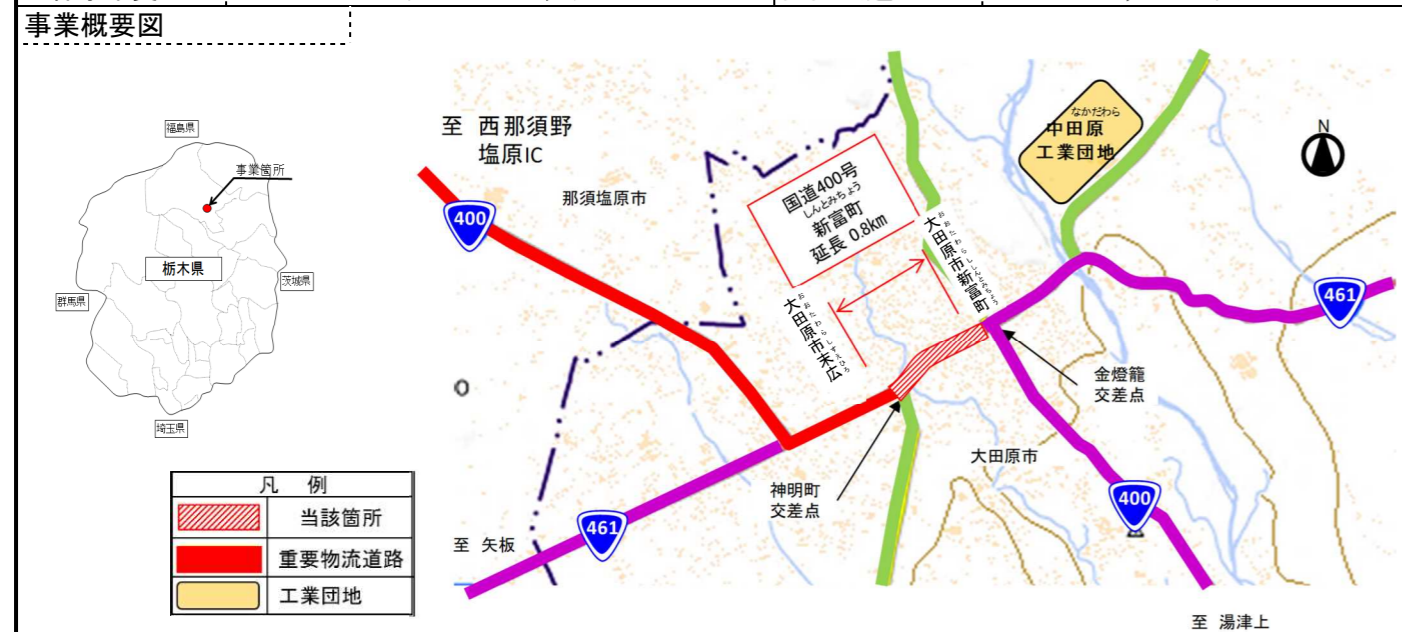
事業名	重要物流道路 一般国道400号 新富町	事業区分	一般国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県大田原市新富町 至：栃木県大田原市末広	延長	0.8 km		

事業概要
一般国道400号は、茨城県水戸市を起点とし、大田原市を經由して福島県西会津町に至る広域幹線道路である。大田原市中心部の金燈籠交差点から西那須野塩原インターチェンジ間については、平成31年4月に安定的な輸送の確保を目的として機能強化等を行う重要物流道路として国の指定を受けた。

本事業は、整備の中抜け区間となっている延長0.8 kmについて、道路改築による車道及び路肩の拡幅と右折車線の整備、無電柱化を図るものである。

事業の目的、必要性
①安定的な輸送の確保
道路を拡幅し、電線類を地中化することで、防災機能を高め、重要物流道路として、平常時・災害時を問わない安定的な輸送が期待できる。
②防災機能の向上
第一次緊急輸送道路としての機能強化が図られ、災害時の救援活動や物資輸送などの迅速性・確実性が向上する。

全体事業費	約 25 億円	計画交通量	9,400 台/日
-------	---------	-------	-----------



関係する地方公共団体等の意見
大田原市から早期整備の要望がされている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
R1. 11. 20に開催した栃木県公共事業評価委員会において、事業実施が妥当との意見

事業採択の前提条件
 ① 便益が費用を上回っている。
 ② 地元自治体から早期整備要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.3	総費用 19億円 （事業費：18億円 維持管理費：0.58億円）	総便益 23億円 （走行時間短縮便益：20億円 走行費用減少便益：2.7億円 交通事故減少便益：0.64億円）	基準年 令和元年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1	(交通量 -10%)	B/C=1.4	(交通量 +10%)
		事業費変動	B/C=1.1	(事業費 +10%)	B/C=1.4	(事業費 -10%)
		事業期間変動	B/C=1.1	(事業期間 +20%)	B/C=1.3	(事業期間 -20%)

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎
事故対策		—	注目すべき影響はない。
歩行空間		◎	歩道を整備することにより、歩行空間が確保され、歩行者の安全安心な通行が確保できる。
社会全体への影響	住民生活	○	西那須野塩原ICへのアクセス時間や三次救急である那須赤十字病院へ搬送時間が短縮され、救急患者の負担軽減や救命率が向上し、医療サービスの向上が期待できる。
	地域経済	◎	道路を拡幅し、電線類を地中化することで、防災機能を高め、重要物流道路として、平常時・災害時を問わない安定的な輸送が期待できる。
	災害	◎	第一次緊急輸送道路としての機能強化が図られ、災害時の救援活動や物資輸送などの迅速性・確実性が向上する。
	環境	—	注目すべき影響はない。
	地域社会	○	広域道路ネットワークの形成により、西那須野塩原ICと大田原市街地、工業団地などへのアクセス性が向上し、地域連携強化が図られる。
事業実施環境	○	<ul style="list-style-type: none"> 県計画「県土づくりプラン2016」において、重点施策に位置づけられている。 県計画「栃木県無電柱化推進計画」において、重点的に無電柱化を推進する箇所にて定められている。 関係自治体等より整備の要望がされている。 	

採択の理由

事業主体である栃木県が実施した評価結果に基づけば、費用便益費が1.3と便益が費用を上回っており、事業の採択の前提条件が確認できる。
また、西那須野塩原ICと工業団地へのアクセス向上により、物流の効率化が図られるとともに、交通渋滞の緩和や歩行者通行空間の確保など、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
以上により、本事業は令和2年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。